

令和 3 年度温室効果ガス排出量報告書

令和 6 年 2 月 1 9 日
船橋市

はじめに

本報告書は、令和３年３月に策定した「船橋市地球温暖化対策実行計画」の第２部区域施策編に基づく船橋市域における令和３年度温室効果ガス排出量を報告するものです。

目次

I	船橋市地球温暖化対策実行計画について	．．．	3
1	概要	．．．	3
2	計画の目標と８つの施策	．．．	3
3	計画の対象とする温室効果ガス	．．．	4
4	計画の対象範囲	．．．	4
II	令和３年度の温室効果ガス排出状況	．．．	5
1	船橋市の温室効果ガス排出量の現状	．．．	5
2	船橋市の部門別二酸化炭素排出量	．．．	6
3	船橋市と他市の部門別二酸化炭素排出量の推移	．．．	7

I 船橋市地球温暖化対策実行計画について

1. 概要

国連環境計画（UNEP）が令和 5 年 11 月に発表した報告書では、パリ協定のもとでの各国の削減目標を達成できたとしても、世界の平均気温は 2.5～2.9 度上昇すると予想され、1.5℃目標と大幅に乖離していることが明らかになったとしています。そのような中、令和 5 年（2023 年）にドバイで開催された COP28 において、世界全体の気候変動問題への取り組み状況を評価するグローバル・ストックテイクの結果が示されたほか、2030 年までに再生可能エネルギー容量を 3 倍、エネルギー効率を 2 倍にする目標の設定や、最終合意文書では、2050 年までに温室効果ガス排出を実質ゼロにする目標に向け、「化石燃料からの脱却を進め、今後 10 年間で行動を加速させる」と定められるなど、世界的に地球温暖化対策への流れを加速させています。

船橋市では、令和 3 年 2 月にゼロカーボンシティを表明し、同年 3 月に策定した「船橋市地球温暖化対策実行計画」においても「2050 年ゼロ・カーボンへの挑戦」を掲げて温室効果ガス排出量を削減する「緩和策」に意欲的に取組むとともに、すでに起こっている熱中症や短時間強雨といった、気温の上昇に伴い発生する影響を回避・軽減するための「適応策」を施策の柱の 1 つとして定めて、緩和、適応の両輪から地球温暖化対策に取り組む体制を整えました。

2. 計画の目標と 8 つの施策

実行計画では、市民・事業者・市の各主体が温室効果ガスの排出抑制に関する取組を最大限に行うことに加えて、長期的には新技術の実用化や社会スタイルの大幅な変革に期待し、以下の目標を掲げています。また、この目標の達成のため、施策を 8 つの柱に分類し体系立てました。

ゼロ・カーボン達成のため
温室効果ガス削減の中期目標が変わりました

中期目標

⇒2030 年度までに 2013 年度比 26%削減 ➡ **46%**削減

長期目標

⇒意欲的な目標として 2050 年**ゼロ・カーボン**に挑戦

図 1 計画の目標

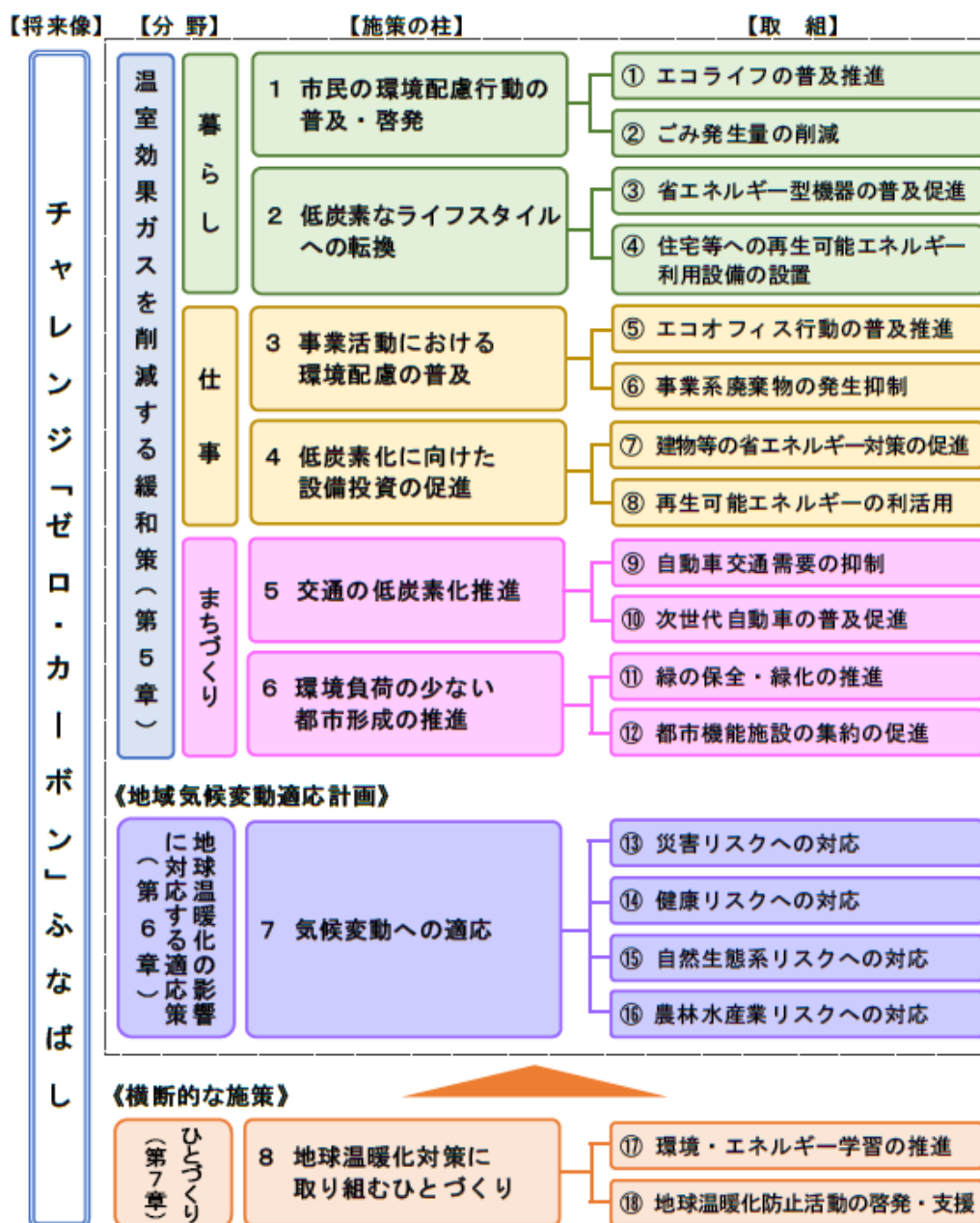


図2 施策体系

3. 計画の対象とする温室効果ガス

計画の対象とする温室効果ガスは「地球温暖化対策の推進に関する法律（温対法）」第2条第3項に定める7種類の温室効果ガスとします。（表1参照）

4. 計画の対象範囲

船橋市域全域を対象とします。

表 1 計画の対象とする温室効果ガス

温室効果ガス		地球温暖化係数	船橋市内の主な発生源
①	二酸化炭素 CO ₂	1	・ 化石燃料の燃焼等
②	メタン CH ₄	28	・ 燃料の燃焼等
③	一酸化二窒素 N ₂ O	265	・ 燃料の燃焼等
④	ハイドロフルオロカーボン類 HFCs	4 ~ 12,400	・ 冷蔵庫やカーエアコンの冷媒
⑤	パーフルオロカーボン類 PFCs	6,630 ~ 11,100	・ 半導体の製造プロセス等
⑥	六ふっ化硫黄 SF ₆	23,500	・ 電気の絶縁体等
⑦	三ふっ化窒素 NF ₃	16,100	・ 半導体の製造プロセス等

代替フロン等4ガス

Ⅱ 令和3年度の温室効果ガス排出状況

1. 船橋市の温室効果ガス排出量の現状

2021年度の船橋市域からの温室効果ガス排出量は 3,139 千 t-CO₂ で、基準年度である 2013 年度から約 18%削減しました（図 3）。

このうち、二酸化炭素排出量は 3,056 千 t-CO₂ で、全体の約 97%でした（図 4）。なお、算定に使用する統計書が整備される時期の関係で、最新の値は 2021 年度となっています。

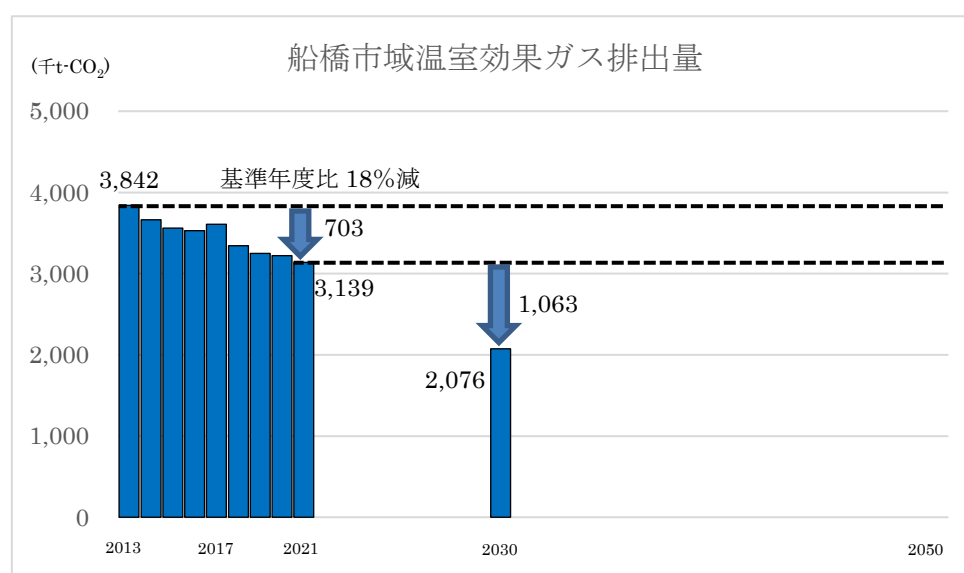


図 3 船橋市の温室効果ガス排出量の推移

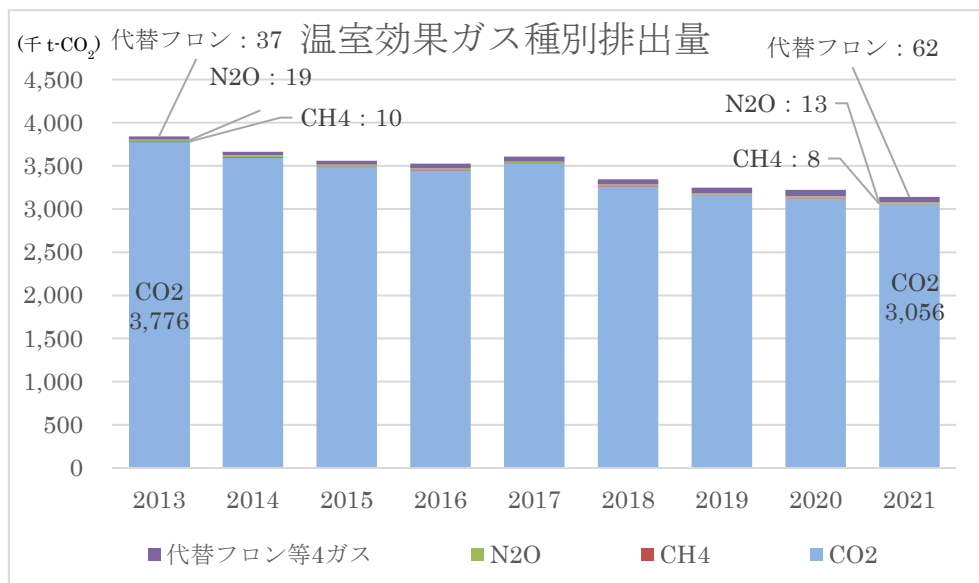


図4 船橋市の温室効果ガス種別排出量の推移

2. 船橋市の部門別二酸化炭素排出量

2021年度の部門別の二酸化炭素排出量は、産業部門が最も多い約41%を占めました。部門ごとの割合はおおむね変わらずに推移しております（図5）。

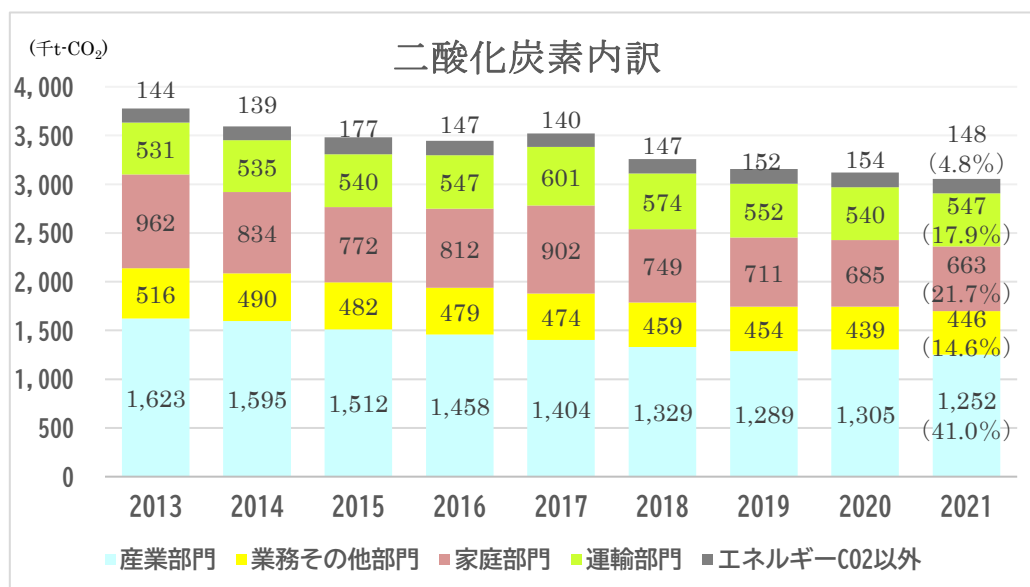


図5 船橋市の部門別二酸化炭素排出量の推移

分野別にみると2013年度と比較して、産業部門（約23%減）、業務その他部門（約14%減）、家庭部門（約31%減）は減少傾向を示しており、市民・事業者の身近な温暖化対策の取組（不要照明の消灯、省エネ機器への買替等）が浸透していると考えられます。

前回公表値（2020年度）と比較すると、新型コロナウイルス感染症の影響が落ち着きを取り戻しつつある中で、業務その他部門（約2%増）と運輸部門（約1%増）は横ばい傾向

となりましたが、産業部門（約 4%減）と家庭部門（約 3%減）は減少しております。

減少要因を分析すると産業部門においては鉄鋼業、印刷業、生産機械製造業の排出量が下がったことが要因となっております。家庭部門については電力使用量の減少がみられており、不要照明の徹底のような身近な省エネが進展したことに併せて、家電の省エネ化が進んでいると考えられます。

中期目標達成に向けては、毎年目標に向けて排出量を同量減少させると仮定した場合 2021 年度目標値（3,010t-CO₂）（表 1）に対して、達成率約 96%と若干及ばないため、市民事業者対象の講座の開催を通じた、「身近な省エネ」・「再生可能エネルギーの利用」の普及拡大や「電動車」の普及をこれまで以上に進めていく必要があります。

表 1 市域から排出される温室効果ガスの目標達成状況

年度	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
現状値(千t-CO ₂)	3,842	3,664	3,560	3,527	3,606	3,345	3,249	3,222	3,139
目標値(千t-CO ₂)	—	3,738	3,634	3,530	3,426	3,322	3,218	3,114	3,010
達成率(%)		102	102	100	95	99	99	97	96

※2030 年 46%削減に向けた年度ごとに必要な削減量から目標値を算定したところ、直近の令和 3 年度（2021 年度）は達成率 96%であり、若干及ばないもののおおむね順調に進捗している状態となっております。

3. 船橋市と他市の部門別二酸化炭素排出量の推移

部門別の二酸化炭素排出量について、近隣の人口規模の近い都市との比較を以下に示します。（図 6～9）

（参考）人口（2024 年 1 月 1 日現在）

船橋市 647,105 人、市川市 497,394 人、柏市 434,031 人、川口市 592,656 人、八王子市 578,396 人

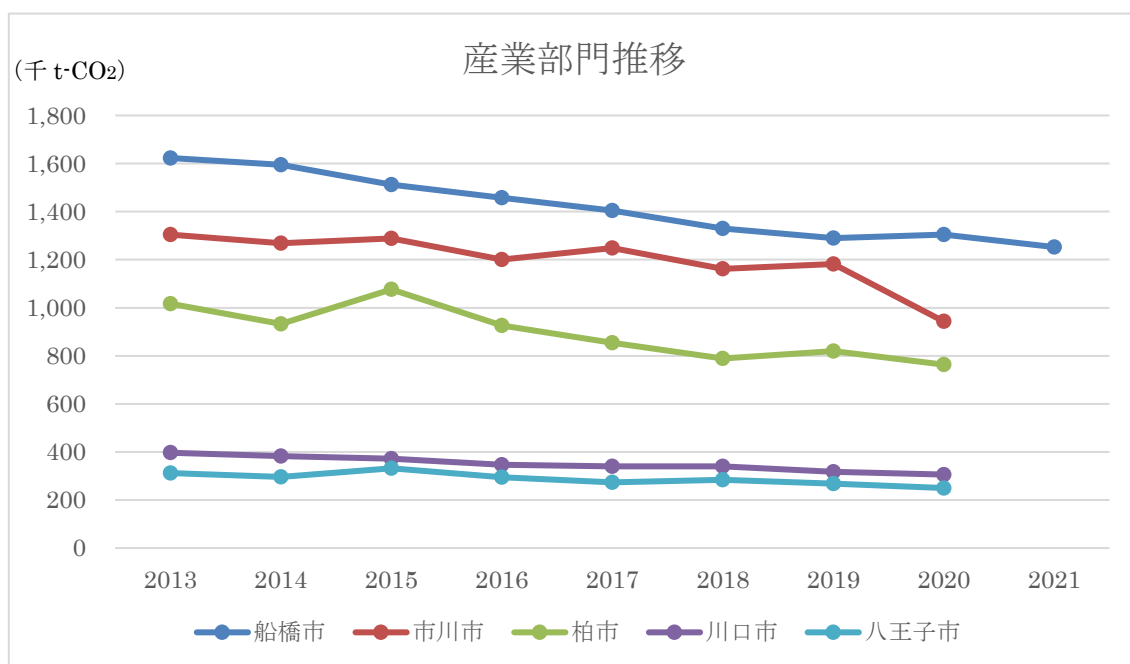


図 6 船橋市と他市における産業部門の排出量の推移

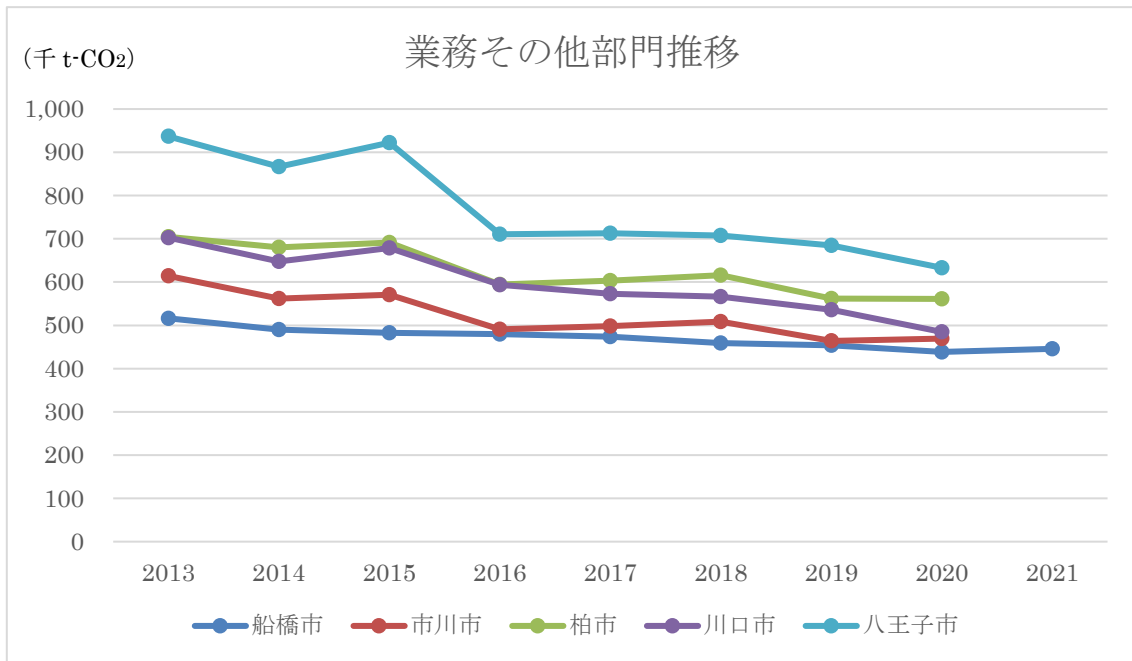


図 7 船橋市と他市における業務その他部門の排出量の推移

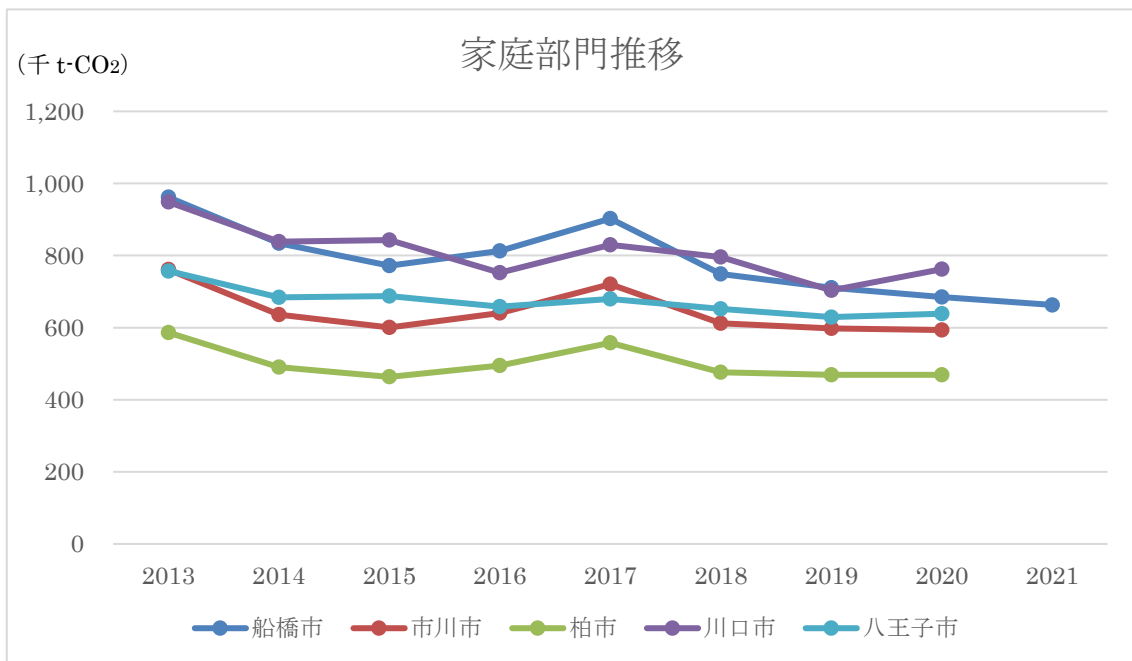


図 8 船橋市と他市における家庭部門の排出量の推移

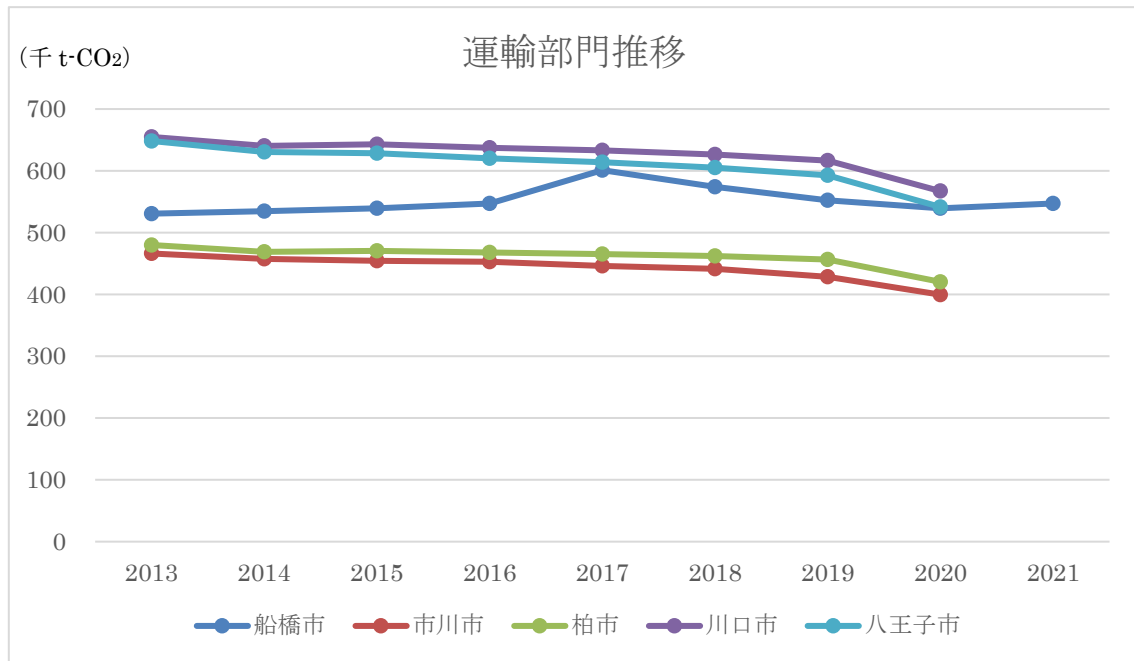


図 9 船橋市と他市における運輸部門の排出量の推移